



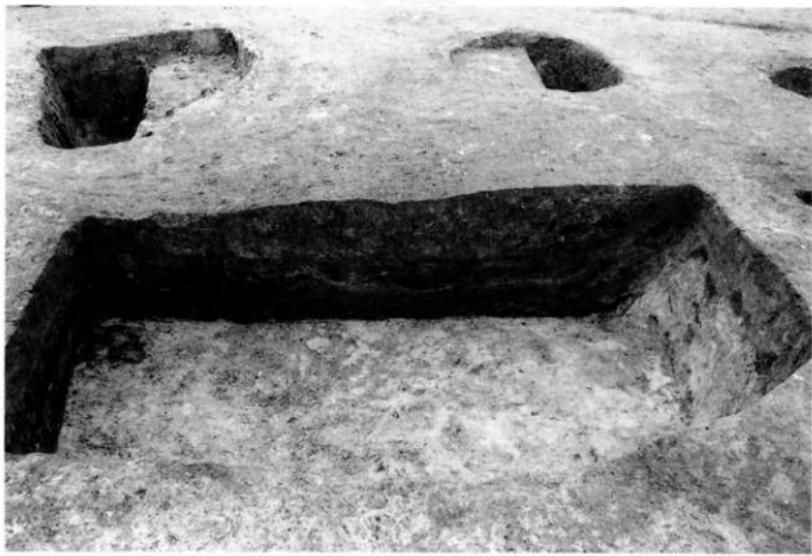
溝狀遺構 5 遺物出土狀況



溝狀遺構 5



井戸状遺構



池状遺構



376



381



378



379



382



385



147



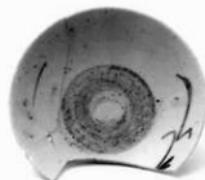
387



386



413



414



415

近世の遺物1（掘立柱建物跡、池状遺構）



390



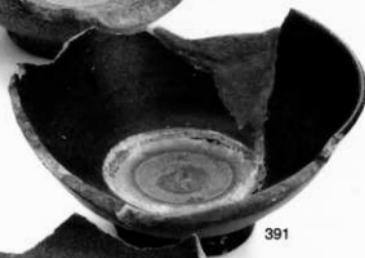
391



392



390

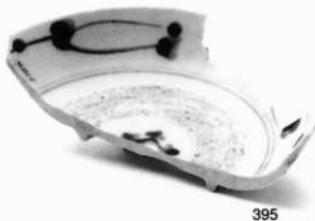
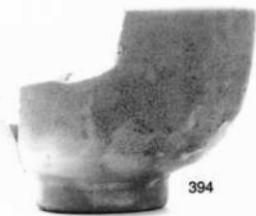


391



392

近世の遺物2（溝状遺構1）



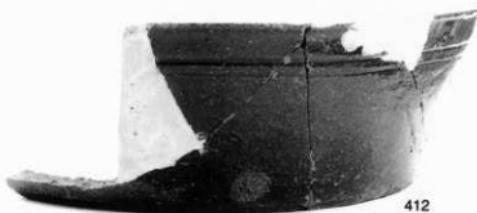
近世の遺物 3 (溝状遺構 1)



405



407



412



406



410



411



409



408

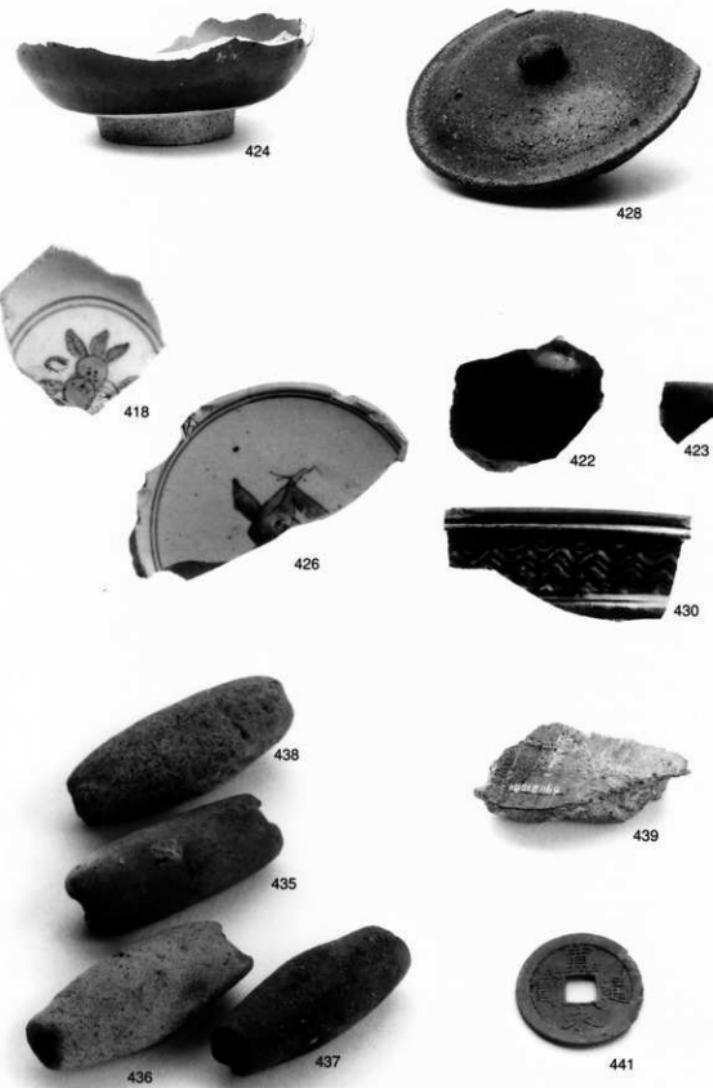


417



419

近世の遺物 4 (溝状造構 5, その他)



近世の遺物5（土錘、滑石、古銭）

あとがき

調査予定地は、標高差約20mある丘陵部と低地部に大きく別れることや、用地買収未終了前に調査が開始されたこと、住居移転を待っての発掘調査となつことなどの条件が重なったため、調査期間は3年間に渡つた。そのため、調査担当者も年度ごとに異なることとなつた。

また、最終年度は3ヶ月間、調査面積全体の5分の1の調査ではあったが、住居移転の関係で全員が調査区に入れず、遠く離れた大島遺跡と同時に調査を行つたので効率の悪い調査であった。加えて、山間部に位置し冬季のため自然条件は厳しく、悪条件の中での作業を余儀なくされたが、限られた調査期間を守るために、作業前の霜剥ぎや降雪の中でも作業を行うなどして期間内に調査を終了することができた。

整理作業は、調査担当者の異なる3年間の調査結果を、しかも特徴の大きく異なる2つの遺跡をひとつにまとめるこことなり、不安を抱えての作業となつた。引き継ぎがうまくいかず苦労したところも見られたが、前担当者への聞き取りや、作業員さんの努力により刊行することができた。今回の整理作業を通して、調査担当者間の引き継ぎがいかに大切かを実感することができた。

多くの汗を流して従事して下さった地元の作業員の方々をはじめ、川内市教育委員会ならびに鉄道建設公団、開発公社、JVの関係各位の方々に厚くお礼を申し上げます。

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(56)

九州新幹線鹿児島ルート建設に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書V

前 番 遺 跡

2003年3月

発行者 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4461 鹿児島県国分市上之段1175-1
印刷所 株式会社 秀巧社印刷
〒890-0072 鹿児島市新栄町25-7